

都道府県別の平成 23 年産水稻の生産事情

大臣官房統計部

平成 23 年 3 月 9 日

農林水産省

本資料のうち、都道府県別の「図 6 品種別作付割合の動向」については、平成21年産までは、同年産をもって終了した「水稻うるち米の品種別作付状況」（農林水産省総合食料局）の結果を使用し、平成22年産以降は種子の配布数量からの推計値を基本に、各都道府県の関係機関からの情報等に基づき推定したものである。

したがって、それぞれのデータは正確に連続するものでないことに留意願いたい。

都道府県別の平成23年産水稻の生産事情

	生 産 事 情
北海道	「ななつぼし」、「きらら397」、「ほしのゆめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。育苗管理の徹底、防風対策等の栽培環境整備、適正施肥等の基本技術を守った栽培管理によって、健苗の育成や稲体の耐冷素質の向上を図り、良質・良食味米の安定生産が進められている。
青 森	品種構成は「つがるロマン」、「まっしぐら」が中心であるが、近年、耐倒伏性、いもち病抵抗性に優れる「まっしぐら」の作付割合が津軽地域において上昇している。売れる米づくりを推進するため、適地適品種の作付けと適正な施肥管理の徹底等の指導が行われている。また、近年、収量水準の高い津軽地帯の作付割合が上昇している。(資料No.8参照)
岩 手	「ひとめぼれ」、「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。適地適品種の作付け、基本技術の徹底による高品質・良食味米の安定生産及び低温障害回避のため、適期移植等の指導が推進されている。
宮 城	「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。特別栽培米等の高品質・良食味米生産の推進を図るため、適正な肥培管理の指導や、障害型冷害、高温登熟による品質低下を回避するため、遅植え等の指導が行われている。
秋 田	「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。生育・栄養診断に基づく肥培管理、低温に遭遇する危険性や高温登熟における品質低下を回避するための安全作期内における適期移植等の指導が行われている。
山 形	「はえぬき」、「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。気象変動に対応した品質向上技術(水管理、適期移植)の指導や、土壌診断に基づくリン酸、カリ等の適量施肥等の指導が行われている。
福 島	「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。適地適作に加え、「環境と共生する米づくり」の取組拡大を図るための有機栽培米・特別栽培米の栽培が推進されている。
茨 城	品種構成は「コシヒカリ」が中心であるが、近年、「コシヒカリ」に比べ収量水準の高い「あきたこまち」等の作付割合が上昇している。「コシヒカリ」の適期田植えの徹底、適期・適切な中干しによる茎数管理、穂肥の適期・適量施肥等高品質米の安定生産に向けた栽培が推進されている。また、近年、中山間地域の低収量地帯の作付割合が低下している。(資料No.8参照)
栃 木	品種構成は「コシヒカリ」が中心であるが、近年、「コシヒカリ」に比べ収量水準の高い「あさひの夢」、「なすひかり」の作付割合が上昇している。品質や食味の向上を図るため、水管理の徹底、生育診断に基づく適正な肥培管理等の指導が行われている。(資料No.8参照)
群 馬	「あさひの夢」、「ゴロピカリ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。品種特性に対応した適期移植並びに適期・適量施肥、生育・気象の推移に応じた水管理等の指導が行われている。また、夏場の高温対策として、高温登熟の回避・高温に強い稲体づくりなどを徹底する指導が強化されている。
埼 玉	「コシヒカリ」、「彩のかがやき」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質・食味向上のための栽培管理技術の徹底並びに栽培基準や栽培指針に準じた肥培管理等の指導が行われている。また、夏場の高温対策として、高温登熟の回避・高温に強い稲体づくりなどを徹底する指導が強化されている。
千 葉	「コシヒカリ」、「ふさこがね」、「ふさおとめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。気象変動や生育状況に即した栽培管理の指導(植え付け早限の順守や適正な施肥・水管理の徹底等)により、早場米産地としての特徴を活かし、おいしさや安全・安心などの高付加価値化を推進している。
東 京	「コシヒカリ」に比べ収量水準の高い「キヌヒカリ」等の作付割合が上昇している。
神奈川	「キヌヒカリ」、「さとじまん」を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質米生産推進のため、地域・品種特性に応じた適量施肥、水管理等の指導が行われている。

都道府県別の平成23年産水稻の生産事情

	生 産 事 情
新 潟	「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米生産推進のため、土づくりの推進、作期是正、過剰生育防止、適量施肥、水管理の徹底及び適期刈取り等の指導が行われている。
富 山	「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米の安定供給に向けた積極的な土づくりや、基肥及び穂肥の的確・適正な施用の厳守、水管理及び適期防除の徹底等の指導が行われている。
石 川	「コシヒカリ」、「ゆめみづほ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。緩効性肥料の普及や遅植え及び適正茎数の確保等品質管理を中心とした指導が行われている。
福 井	「コシヒカリ」、「ハナエチゼン」を中心とする品種構成に大きな変化はない。土作りと適切な水管理の徹底や、高温登熟回避による品質向上を図るための適期移植・直播栽培等の指導が行われている。
山 梨	「コシヒカリ」、「あさひの夢」を中心とする品種構成に大きな変化はない。高温障害回避のための遅植えの指導や、良食味米生産推進のための基肥及び穂肥の適量施肥等の指導が行われている。
長 野	「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。高温登熟回避のための遅植え、適切な水管理の実施や、良食味米生産推進のための施肥基準の徹底、適期移植、適期刈取り等の指導が行われている。
岐 阜	「ハツシモ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。適地適作を前提とし、温暖化傾向に対応するための遅植え、適期の施肥の指導や、カメムシによる斑点米防止のための防除体制の強化等の指導が行われている。
静 岡	「コシヒカリ」、「あいちのかおり」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。売れる米作りの観点からの食味の向上、倒伏による品質低下の防止を図るため、適期適量施肥、適期防除及び適期刈取り等の指導が行われている。
愛 知	「あいちのかおり」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。施肥改善と基本技術の励行による品質改善や、過剰な生育を抑制するため、適正な栽植密度の確保等の指導が行われている。
三 重	「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。白未熟粒対策や良質米の生産推進のための品種に応じた適期・適量施肥等の指導が行われている。
滋 賀	「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」を中心とする品種構成に大きな変化はない。温暖化の影響による品質低下の防止に向け、遅植え、疎植、適量施肥、水管理等の指導が行われている。
京 都	「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。初期生育を抑制し過剰分げつを防止するため、有機質肥料（堆肥や稲わら）等の緩効性肥料を施用する指導が行われている。
大 阪	「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。品種別、地域別に適期移植、合理的施肥等の指導が行われている。
兵 庫	「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。堆肥等の有機質資材の施用による土づくり、高温による品質低下の回避のための適期移植、病虫害発生予察に基づく適正防除による農薬の低減等の指導が行われている。

都道府県別の平成23年産水稻の生産事情

	生 産 事 情
奈 良	「ヒノヒカリ」、「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。安定生産、良質米生産に向け、立地条件、品種の栽培特性、品質・食味等を総合的に検討し、適地適品種の原則による品種の選定が行われている。
和 歌 山	「キヌヒカリ」、「イクヒカリ」、「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。適切な品種構成による良質米生産を推進するとともに、適期防除、適期収穫、適正な水管理等の指導が行われている。
鳥 取	「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。良質米生産の推進のため、土づくりの徹底、健苗の育成、施肥の改善、適正な水管理、病虫害防除等の指導が行われている。
島 根	「コシヒカリ」、「きぬむすめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米の安定生産のため、健苗の育成、適期移植、適正な肥培管理等の指導が行われている。
岡 山	「ヒノヒカリ」、「アケボノ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。品種特性に応じた適期移植、生育に応じた適量施肥、根腐れ防止のための適正な水管理等の指導が行われている。
広 島	「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「あきろまん」を中心とする品種構成に大きな変化はない。肥培管理、水管理等基本管理技術の高位平準化により品質向上を目指すとともに、需要動向を踏まえた売れる米づくりに対応し、実需者ニーズに対応する品種の作付けによる産地の育成を図っている。
山 口	「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。地域の特性に応じた適地適品種の作付けや、登熟期の高温障害を回避するための遅植え、栽植密度の確保、水管理の徹底等の指導が行われている。
徳 島	「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。食味の向上、倒伏による品質低下防止のため、適量施肥等の指導が行われている。
香 川	「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。登熟期の高温による品質低下の防止に向けて、適期移植、水管理、適期収穫等の指導が行われている。
愛 媛	「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。疎植栽培の推進や茎数・穂数確保や品質向上に向けた水管理、適期刈取りの徹底等の指導が行われている。
高 知	「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上のため、適正な肥培管理、適期防除、適期刈取りの指導や温暖化の進行に対応するため、早期栽培で疎植栽培、普通期栽培で遅植え等の指導が行われている。また、近年、収量水準の低い西部地帯の作付割合が低下している。(資料No.8参照)
福 岡	「ヒノヒカリ」、「夢つくし」を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上のため、中干し・間断灌水・落水時期の適正化、土壌診断・施肥基準に基づく適正な施肥等の指導が行われている。
佐 賀	「ヒヨクモチ」、「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「さがびより」を中心とする品種構成に変化はない。品種特性に応じた播種・移植時期の徹底、生育ステージに応じた施肥管理、水管理(適正な中干しの実施、早期落水の防止)等の指導が行われている。
長 崎	「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。温暖化進行に対応するための遅植えの指導や、良質米・良食味米生産のための適期・適量施肥等の指導が行われている。

都道府県別の平成23年産水稻の生産事情

	生 産 事 情
熊 本	「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。登熟期の高温障害を回避するための遅植えの指導や、品質向上のための適期移植、間断灌水、生育診断に基づいた適正な穂肥の施用等の指導が行われている。
大 分	「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。堆肥投入による地力向上、品質向上に向けた遅植え、疎植、適切な水管理(中干し、間断灌水)の実施等の指導が行われている。
宮 崎	品種構成は「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」が中心であるが、近年、「ヒノヒカリ」に比べ収量水準の高い「まいひかり」の作付割合が上昇している。適正な栽植密度の確保、移植時期の後進化、土壌診断に基づく適正施肥等の推進、根の活性化促進等のための適正な水管理の徹底等の指導が行われている。(資料No.8参照)
鹿 児 島	品種構成は「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」が中心であるが、近年、「ヒノヒカリ」に比べ収量水準の高い「あきはなみ」等の作付割合が上昇している。高品質米の生産に向けて、適正な栽植密度の確保、適正な施肥、水管理等の指導が行われている。(資料No.8参照)
沖 縄	「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。JA・普及センター等による肥培管理・防除等の指導を共同で実施している。